

## 小児科外来での舌下免疫療法導入時における薬剤師の関与

法人名	医療法人興生会
病院名	相模台病院
職種・所属	薬剤師・薬剤部 同小児科 静岡てんかん・神経医療センター
発表者氏名	多田彬絵
協力者氏名	八城瑞穂 小松裕里 相澤政明 白井宏幸 石田倫也

## 【目的】

アレルギー免疫療法の対象疾患は、アレルギー性鼻炎、気管支喘息などが一般的であり、注射による皮下免疫療法と錠剤または液剤の舌下投与による舌下免疫療法などがある。当院の小児科外来では、ミティキュアダニ舌下錠およびシダキュアスギ花粉舌下錠を使用した治療を行っており、初回導入時に薬剤師が外来診察に同行し服薬指導を行っている。今回、その現状と課題について報告する。

## 【方法】

2019年5月25日～2020年3月21日に、小児科においてアレルギー舌下免疫療法を開始した外来患者ならびに保護者を対象とした。初回導入時は院内での30分待機が添付文書上で規定されていることから、その間に薬剤師が薬の服用方法、副作用、注意点などの服薬指導を行い、薬剤師の指導のもと患者がその場で服薬することとした。適宜、口頭で医師・看護師と問題点を共有し、服薬指導内容を電子カルテに記載した。初回導入日の1週間後に薬が増量となるが、初回導入時と同様に服薬指導とお薬手帳へのシール貼付を行った。これらの内容を患者モニタリングシートに記載し集積して調べた。

## 【結果】

病院薬剤師による服薬指導を行った患者は男11名、女10名の計21名(10±3歳)、初回導入時26回、1週間後の増量時23回であった。ミティキュアダニ舌下錠は男5名、女6名の計11名、シダキュアスギ花粉舌下錠は男9名、女6名の計15名であった。患者からは薬剤師が説明することで安心感があるとの意見があった。服薬指導時の患者からの質問は、服用時間に関するものが多かった。副作用は14件あり、痒みが多かった。また、医師からは服薬アドヒアランスが向上したとの意見があった。

## 【考察】

小児科外来診察に薬剤師が同行して舌下免疫療法の服薬指導を行うことで、医師・看護師とリアルタイムな情報共有が可能になり、適正な薬物療法の実施と患者家族の安心感が得られると考える